

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	貴自治体において第9期介護保険事業計画に記載している内容						令和7年度(年度末実績)					公表の状況	
	項目名	細目名	目標を設定するに至った「現状と課題」	第9期計画における「取組」	「目標」 (事業内容、指標等)	中間見直し	取組の具体的な実施内容、実績	自己評価	評価の理由	課題と対応策	実施状況	公表の方法	
春日部市	②給付適正化	ケアプラン点検	認定者数やサービス給付額は年々上昇しており、介護保険料の被保険者負担の増加は避けられない状況である。介護サービスの不適切な利用を防ぐ給付適正化事業の推進は必須である。	ケアプラン点検	・ケアプランの点検件数 R6 130件、R7 130件、R8 130件	なし	委託による点検と併せて軽度者の福祉用具貸与などのケアプランを点検し、適正利用についての共通認識をもつことができた。 ・ケアプラン点検件数109件	◎	目標の件数には至らなかったが、計画的に実施することができたため。	委託により今後も継続していく。	実施	HPで公表	
春日部市	①自立支援・介護予防・重度化防止	健康維持・介護予防の推進	春日部市民の健康寿命は男女とも県平均より低く、平均余命から健康寿命を引いた要介護期間は県平均よりも長くなっている。健康寿命を伸ばし、要介護期間を短くしていくため、介護予防事業は重要である。	健康づくりいきいき運動研修会の実施	・健康づくりいきいき運動研修会の参加者数 R6 570人、R7 625人、R8 685人	なし	地域での自主的な介護予防活動を広く普及するため、健康づくりいきいき運動研修会を公民館等で18回実施した。 R7参加者数 546人	◎	目標値よりも下回ったが、前年を上回る参加者数で、達成率が高いため。	今後も介護予防活動を普及するため、地域と連携しながら、より多くの高齢者が参加できるようにしていく。	実施	HPで公表	
春日部市	①自立支援・介護予防・重度化防止	健康維持・介護予防の推進	春日部市民の健康寿命は男女とも県平均より低く、平均余命から健康寿命を引いた要介護期間は県平均よりも長くなっている。健康寿命を伸ばし、要介護期間を短くしていくため、介護予防事業は重要である。	そらまめ体操の普及	・そらまめ体操の延べ参加者数 R6 6,500人、R7 7,000人、R8 7,500人	なし	市内11か所でそらまめ体操ボランティア指導者によるそらまめ体操の普及啓発を行った。また、そらまめ体操ボランティア指導者の養成や研修などを実施した。 ・そらまめ体操の延べ参加者数 12,479人	◎	昨年度より参加人数が1,469人増加し、目標の7,000人に対し12,479人となり、178.3%の達成率となった。	・春日部そらまめ体操の会場を12会場で概ね週1回実施し、参加者数の増加が大きい施設については2部制の導入を検討する。 ・健康脳トレ塾や介護予防ステップアップ講座の開催により、認知症予防及び介護予防の普及啓発を図る。	実施	HPで公表	
春日部市	①自立支援・介護予防・重度化防止	健康維持・介護予防の推進	春日部市民の健康寿命は男女とも県平均より低く、平均余命から健康寿命を引いた要介護期間は県平均よりも長くなっている。健康寿命を伸ばし、要介護期間を短くしていくため、介護予防事業は重要である。	住民主体型介護予防事業の実施	・かすかべえんJOYTトレーニング実施団体数 R6 27団体、R7 29団体、R8 31団体	なし	春日部えんJOYTトレーニングの周知(広報掲載、チラシ配布)を図ると共に、団体への継続支援(見守り等)を行った。また、春日部えんJOYTトレーニングサポーターの養成及びフォローアップを実施した。 ・えんJOYTトレーニング実施団体数 34団体	◎	実施団体が目標の29団体に対し34団体となり、117.2%の達成率となった。	・春日部えんJOYTトレーニング実施団体に対し、理学療法士等による継続支援を行うと共に、地域包括支援センターと連携し、新規団体立ち上げに向けた支援を行う。 ・えんJOYTトレーニングサポーター養成講座及びフォローアップ講座を開催し、住民主体の介護予防事業の担い手を養成する。	実施	HPで公表	
春日部市	①自立支援・介護予防・重度化防止	健康維持・介護予防の推進	春日部市民の健康寿命は男女とも県平均より低く、平均余命から健康寿命を引いた要介護期間は県平均よりも長くなっている。健康寿命を伸ばし、要介護期間を短くしていくため、介護予防事業は重要である。	介護支援ボランティアポイントの実施	・介護支援ボランティアの登録者数 R6 300人、R7 350人、R8 400人	なし	介護支援ボランティア事業について、広報掲載や介護予防事業でチラシ配布するなどして周知を行い、介護支援ボランティア登録者の増加を図った。あわせて、ポイント対象となる施設及び活動を拡大するため、新たに子育て関連施設を対象施設に加えると共に、えんJOYTトレーニングサポーター及びフレイルサポーターの活動を対象活動に加えた。 ・介護支援ボランティアの登録者数 498人	◎	登録者数が目標の350人に対し498人となり、142.3%の達成率となった。	・ボランティア活動を通じて高齢者の地域貢献や社会参加を通じた介護予防を推進するため、広報掲載や介護予防事業参加者などにより広く周知をして介護支援ボランティアの登録者数の増加を図る。	実施	HPで公表	
春日部市	①自立支援・介護予防・重度化防止	健康維持・介護予防の推進	春日部市民の健康寿命は男女とも県平均より低く、平均余命から健康寿命を引いた要介護期間は県平均よりも長くなっている。健康寿命を伸ばし、要介護期間を短くしていくため、介護予防事業は重要である。	フレイルチェックの実施	・フレイルチェックの延べ参加者数 R6 180人、R7 360人、R8 720人	なし	フレイルチェック事業を市内全域に立ち上げました。地域包括支援センターと連携して地域への啓発及び立ち上げ支援を行うと共に、フレイルサポーターフォローアップ講座を開催し、住民主体によるフレイル予防活動の推進を図る。 ・フレイルチェック測定会延べ参加者数 268人	○	市内8圏域でのフレイルチェック事業の立ち上げた。フレイルチェック測定会延べ参加者数が目標の360人に対し268人となり、74.4%の達成率であった。	・市内全域に立ち上げたフレイルチェック事業の内滑な運営を図るため、事業の効率化及びサポーターの確保が課題である。 ・フレイルサポーター養成講座及びフォローアップ講座を開催し、住民主体の介護予防事業の担い手を養成する。	実施	HPで公表	
春日部市	①自立支援・介護予防・重度化防止	認知症対策	日常生活自立度Ⅱ及びⅢ以上の割合が国や県平均に比べて高い。認知症の人や介護する人の視点を重視しながら、正しい知識の普及や、当事者や家族が孤立することがない地域が重要である	脳トレ塾の実施	・脳トレ塾の参加者数 R6 900人、R7 1,000人、R8 1,100人	なし	地域の高齢者に対し、介護予防の普及・啓発を行い、セルフマネジメントの動機付け及び習慣化を図るため、そらまめ体操や認知症予防のための脳トレーニング、栄養・運動・口腔ケア等に関する講座を全10日間の日程で、市内4会場で開催した。 ・脳トレ塾の参加者数 745人	○	参加者数が目標の1,000人に対し745人となり、74.5%の達成率となった。	・介護予防に関する様々な知識及び実践力の習得により、セルフマネジメントの動機付け及び習慣化を図るため、講座の日数を10日間の日程で開催した。 ・介護予防手帳「そらまめ手帳」を活用し、参加者自身による介護予防プランの設定を行う。	実施	HPで公表	
春日部市	①自立支援・介護予防・重度化防止	認知症対策	日常生活自立度Ⅱ及びⅢ以上の割合が国や県平均に比べて高い。認知症の人や介護する人の視点を重視しながら、正しい知識の普及や、当事者や家族が孤立することがない地域が重要である。	認知症サポーター等養成事業の実施	・認知症サポーターの養成者数 R6 750人、R7 800人、R8 850人	なし	各地域包括支援センター、認知症疾患医療センターにおいて、地域住民や企業等を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する正しい知識の普及を図った。 ・認知症サポーター養成者数 646人	◎	認知症サポーター養成者数が目標の800人に対し646人と、80.8%の達成率となった。	幅広い世代へ認知症に対する正しい理解や「新しい認知症観」を普及させるため、地域や企業等を対象とした認知症サポーター養成講座の他、小中学生等を対象とした講座を開催し、養成者数の増加を図る。	実施	HPで公表	
春日部市	①自立支援・介護予防・重度化防止	在宅生活の継続支援	在宅介護実態調査において、76.4%が施設入所を検討していないと回答しており、在宅生活の継続を希望する方が大半となっている。住み慣れた地域で暮らし続けるためには、在宅サービスの充実が重要である。	定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用促進	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの1月当たりの利用者数 R6 55人、R7 60人、R8 65人	なし	1月の平均利用者数 53人	◎	利用者が増加傾向にあるため。	サービス利用にあたり、必要な情報を提供していく。	実施	HPで公表	
春日部市	②給付適正化	要介護認定の適正化	後期高齢者の急激な増加に伴い、認定者数も更に増加することが見込まれる。介護サービスの提供基盤を整えつつ、サービスの不適切な利用を防ぐ給付適正化事業を推進することは必須である。	要介護認定の適正化	・認定調査票の点検件数 R6 全件、R7 全件、R8 全件	なし	認定調査票の点検 外部委託した6,003件すべての認定調査票について記載内容を点検し、対象者の正確な情報を審査会に伝達することで、公平公正な要介護認定につなげることができた。	◎	外部委託した認定調査票について、目標通り全件の記載内容を点検することができたため。	高齢化の進展に伴い、申請件数の増加が見込まれる。調査員の技能向上により正確かつ標準化された調査票を作成できるようにするため、研修等の充実を図る。	実施	HPで公表	
春日部市	②給付適正化	縦覧点検・医療情報との突合	後期高齢者の急激な増加に伴い、認定者数も更に増加することが見込まれる。介護サービスの提供基盤を整えつつ、サービスの不適切な利用を防ぐ給付適正化事業を推進することは必須である。	縦覧点検・医療情報との突合	・縦覧点検・医療情報との突合件数 R6 全件、R7 全件、R8 全件	なし	縦覧点検・医療情報との突合を行い、過誤調整などにより適切な給付を行うことができた。	◎	国保連へ委託することにより、全件突合することができたため。	適正な給付を行うため、引き続き実施していく。	実施	HPで公表	